化学物質評価シート(感作性検討用)

※1 (◎:必ず追加すべき ○:追加すべき ×:追加すべきでない △:評価保留)

No.	化学物質名	安衛法の規制	現在の告示に記載されている症状又は障害	医学的知見報告書頁	評価 (※1)	新たな症状又は障害(※2)			(参考)スクリーニング評価時		 前検討会での検討結果
110.	10.7-10.9-11					初たな近仏人は降日(本社)		評価	評価の理由	一	
9	ニッケル及びその化合 物(ニッケルカルボニル を除く	特化則第2類(ニッケル 化合物) ※粉状の物に限る	皮膚障害	26'報告書158頁	Δ		systemic toxicity	(文献等にある職業ばく露の状況) 金属アーク溶接行程中のニッケル吹き付け作業	Δ	呼吸器系の疾患(症例 Phillips JI, 2010、疫学 Brand P 2010)については呼吸器症状(アレルギー性)が疑われる。消化器症状(症例 Sunderman 1988)は他の化学物質の影響との鑑別が困難であること、肝機能(症例対照研究 EI-Shafei HM 2011)は対照群が事務職で比較対象として適切でなく、飲酒の評価もなされていないこと、からニッケルの影響であることが明確でない。更に、疫学調査で大きな障害レベルでない範囲内での差を提示したものであり、障害を引き起こす根拠とならない、と判断する。	
					х	(評価の理由) 症例はNi nanoparticle作業者の一症例、 疫学は合金溶接作業の短期呼吸機能影響(Cr,Ni等)	(文献等)	(文献等にある職業ばく露の状況)	Δ	観察の文献2の成人性呼吸器症候群は重症な疾患であり、 原著を精査するべきだが、慢性吸入で、現時点で知られて いる重篤な障害は肺がんを除きないとされるが、精査の必 要はある。症例の2の肝障害はニッケルによるものか不明な ので必要なし。	
11	ベリリウム及びその化 合物	特化則第1類	皮膚障害、前眼部 障害、気道・肺障害	26'報告書195頁	Δ	状に含まれるが、「感作性」をどのように 取扱うかで再検討の必要性が出てくるの では。		(文献等にある職業ばく露の状況) ベリリウム加工他 曝露濃度<0.16~16.26 μ g/m3	Δ	感作性による肺障害、という観点が現在までの労災に含まれていない、とすれば、検討すべき点ではないか。今回新たに挙げられた症例、疫学研究から、ベリリウムによる過敏症及び肺疾患の発症がみられると考えられた。	一旦対象外 感作性は別途検討
					х	(評価の理由)	(文献等)	(文献等にある職業ばく露の状況)	×	ベリリウム過敏症、慢性ベリリウム肺と報告されている疾患は、接触性皮膚炎(皮膚障害)や気道・肺障害の範疇に入る。	-
	2-ヒドロキシエチルメタ クリレート		皮膚障害	28′報告書 51頁	х	(評価の理由)	(文献等)	(文献等にある職業ばく露の状況)	×	感作性皮膚炎といった感作性を明記する必要はないか	一旦対象外 感作性は別途検討 - -
36					0	(評価の理由) 気道障害:慢性的な吸入曝露により喘息 が生じる	(文献等) Lindstrom, et al, 2002, Moulin, 2009	(文献等にある職業ばく露の状況) 接着剤などの使用により吸入曝露	х Д О	消化器症状は、特異的な症状と特定できない。 神経の感覚は他の化学物質の可能性を否定できない。 気道障害(喘息様症状)は、感作の事実から可能性を否定 できない。休暇中に消失し、作業開始による症状発症も感作 の可能性の裏付け。	
			皮膚障害、前眼部 障害又は気道障害	29'報告書 142頁	×	(評価の理由) 共通的に現れた症状又は障害で、追加 するものはない。感作性呼吸器障害につ いては別途検討の余地がある	(文献等)	(文献等にある職業ばく露の状況)	х	大部分が免疫能に関する知見。肝疾患については、横断研究1件のみで十分な知見とはいえない	その他文献も含め再検索の上、再検討。
69	メチレンビスフェニルイ ソシアネート				Δ	必要があるのでは?	(文献等) Reidy TJ, Bolter JF. Neuropsychological toxicology of methylene diphenyl diisocyanate: a report of five cases. Brain Inj. 1994 Apr;8(3):285-94.	(文献等にある職業ばく露の状況) MDIと炭化水素の混合曝露	© ×	自覚症状、呼吸器障害は感作性から現れる症状であり©。神経心理的な障害、免疫障害、神経障害、肝障害、腎障害は事故的な曝露状況によるものか、疫学研究からのもので×。	
76	ーー・ニージカルボキ		皮膚障害又は前眼 部障害	29'報告書 234頁	×	(評価の理由) 共通的に現れた症状又は障害で、追加 するものはない。 Royce(1993)の「喘息は感作性によるもの で、別途検討すべき		(文献等にある職業ばく露の状況) Groundwater(1977)は曝露状況が不明 Royce(1993)0.1mg/m3超、保護具なし	х	明らかな追加証拠なし	一旦対象外 感作性は別途検討
	シミド				×	(評価の理由)	(文献等)	(文献等にある職業ばく露の状況)	0	2つの症例で喘鳴等の共通した症状による呼吸器障害があるので〇。	

1